

## 第5回学校規模適正化・適正配置推進計画策定委員会(会議録)

- 1 日 時 令和7年4月23日(水)、18時30分～20時13分
- 2 開催場所 中妻地区生活応援センター 大集会室
- 3 出席委員 市村かおり委員、山蔭深思委員、小笠原慎二委員、内川留依委員、小笠原英美委員、福成菜穂子委員、檜山知美委員、柴田渥委員、洞口政伸委員、佐々木啓二委員、市川淳子委員、鈴木崇委員(12人)
- 4 欠席委員 上小路悠子委員、長谷川利香委員、合田育美委員、佐々木猛委員、遠藤一彦委員、常陸奈緒子委員、藤井智哉委員(7人)
- 5 事務局 高橋勝教育長、川崎浩二教育部長、笹村聡一総務課長、佐々木薫学校規模適正化推進室課長、岩淵勝也学校教育課長、鈴木隆光学校教育課主幹、川崎克総務課長補佐、前川恵美総務課長補佐、谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐、濱田成樹主任指導主事

## 6 経 過

### (1)開会

川崎教育部長が開会を宣言

### (2)教育長あいさつ

#### 【高橋教育長】

当市の子どもたちが思ったよりも減少していると実感している。今進めている適正化・適正配置の計画策定委員会は丁寧にかつ迅速に進めていきたい。

本日、まず一つは、前回の策定委員会後に学校・PTAとやり取りを進めているので、説明させていただく。

2点目、以前岩手大学の先生から小中一貫教育についてお話しいただいたが、本日は主任指導主事からも話をさせていただきたい。彼は3年間紫波東学園で勤めていた。紫波町では小中一貫教育を進めており、当市が目指す小中一貫の方向性は、同じような形で考えている。大槌町の義務教育のような1年生から9年生までの形と、小学校、中学校の枠組みを残しつつ小中一貫教育を進めるという枠組みがあるが、紫波町では小学校、中学校の枠組みを残しながら小中一貫教育を進めている。今のところ釜石市教育委員会では、小学校、中学校の枠組みを残しながら進める形のほうが望ましいと考えているので、今日は3年間の実践を踏まえながら、実際の小中一貫教育の具体的な部分を皆さんにご理解いただければと思っている。

3点目、前回、策定計画の素案を示させていただいたが、それについて意見を承りた

い。限られた時間だが、活発な議論が行われることを期待している。

(3)協議等(以下、委員長が議事進行)

【委員長】

今日の委員会では、2点の内容が中心となる。一つ目は小中一貫教育についての理解を深めること、二つ目は推進計画の素案について意見をいただくこと。

小中一貫教育については、第2回委員会において、岩手大学の田代教授から話を伺ったが、今回は、紫波東学園で小中一貫教育の取組を経験された先生が、この4月から釜石市教育委員会に主任指導主事として配属されたことから、経験してきた実際の学校現場の様子や、取組等について話をさせていただく。

後半部分では、推進計画の素案について皆様から意見を頂き、検討を進めたい。次第の3「協議等」に進む。(1)の適正化に関する取組の状況について、説明願う。

(資料1-1、1-2に基づき、事務局から説明)

【委員長】

質問等がありますか。

【各委員】

(なし)

【委員長】

各学校、地区を訪れながら、この資料を使って説明を進めていると理解いただいたと  
いうことでよろしいか。

【各委員】

(異議なし)

【委員長】

次に、主任指導主事の先生から「子供たちの学びを支える小中一貫教育」というテーマでお話しいただく。

(資料2を基に説明)

【委員長】

せっかくの機会なので、質問等あったらお願いしたい。

#### 【委員】

9年間、児童生徒が固定化するという話だったが、私も9年間同じ同級生、先輩、後輩だった。高学年になればなるほど、人間関係がぎくしゃくしたのも見てきた。

1クラス何人と決まっているようだが、例えば、中学何年生の時は、少し人数が足りなくても2クラスにしてみるとか、何人以上いないと2学級にできないということではなく、15人ずつでも2学級にするとか。あと、前に学区の話が出ていたが、学区もある程度自由に転校できるようにするとか。

特に栗林小と鷺住居小を合併してしまうと、前は中学校に上がって人間関係は変わっていたのが、9年間ずっと同じ人間関係でいく。低学年の頃は気にならないが、高学年になると嫌な人は嫌。異動もないとすごく辛いから、先ほど言った転校とか学級の人数も柔軟に対応してもらえると助かるのではないかと思う。

#### 【高橋教育長】

学級編成は今1クラス最大35人だが、例えば34人とかになると、弾力的な学級ということで学校長の判断で2クラスにすることはできる。ただ極端に少ないのは好ましくないということで、極端に小さく分けることは厳しい面がある。

ただ、中学生になった時、学区の変更について、例えば、釜石中から釜石東中に転校する等、考えていく余地はあると思う。小さい学校がいいという子もいれば、大きい学校でやりたいという子もいると思う。

どこの学校も、今回の統合計画によって人数が増えて2クラスになるということではないので、まだ具体的などころではないが、人間関係の固定化を改善する一つの方法として、例えば、近くの学校同士の合同授業等を時々取り入れながら交流の機会を増やしていく等は、検討の可能性はあると思う。

#### 【委員】

9年間の学びの継続というところで、系統性を持って子どもたちが学べるというのはすごくいいと思って聞いていた。

小学校から中学校に進学する時は、中学校はどんなところか分からず不安感があると思うが、交流があることによってその不安感が薄れるのではないか。中学校の先生が小学校に行って教えてくれることも、「中学校ではこういう授業をするんだ」という強い憧れになったり、進学するのが楽しみになるのではないかなと思った。すごくいいと思った。

ただ、中学生と小学生の関わり方というのが、どれほどの度合いなのかはすごく気になった。例えば、6年生は「最高学年として頑張る」みたいに、小学校の中ではあると思う。そこで芽生える自立心やリーダーシップ、小さい子たちに優しくしようとかあると思

うが、中学生のお兄さん、お姉さんたちがたくさん手をかけてくれると甘えてしまうのではないかと思って、その辺の関わり方の度合いがすごく気になった。

子供たちが3年間小中一貫を経験しての率直な感想というか、どんな反応があったのか、良かったところや難しかったところの声に分かれれば教えていただきたい。

### 【主任指導主事】

9年間人間関係が固定化するということがあり、様々な子どもたちの関わりが必要だろうということで行ったのが縦割り班の活動。遊びの時間や掃除の時間を、小学校と中学校を合わせた縦割り班をつくり活動させる。メンバーも固定ではなく、ある程度の期間を経たらメンバーを変え、いろんな関わりができるように進めてきた。

小学校では交流というのをやっていて、例えば、中学校の授業を見に行ったり、中学校の卒業式が近くなったら練習の様子を見に行ったりそこから学びを入れたり、部活動に見学に行ったり、体験入部みたいなことも行っていた。そのような関わりを通して、いろんな人との交わりができるような取組を進めてきた。

子どもたちに実際に聞いて印象に残っていることとしては、それぞれ45分と50分の授業なので、どうしても相手が授業中に移動する時間があり、中学生からは小学生が移動するときうるさいという声も出た。他には、小学生はきっちり廊下歩行を守っているのに、中学生は守っていないという小学生の声があったりした。

お互いに小中一貫の良さも持っているが、不満もしっかり子どもたちは出してきた。そういううまくいかない中で、どのように寄り添って、学び合って、歩み寄りながらやっていくかを生徒会や児童会を中心に考える機会ができて、挨拶の運動や募金の取組もそこから生まれた。お互いにもうちょっと一緒にやる取組、理解する取組が必要ではないかということで、児童生徒主体になって取組が生まれてきた例はある。うまくいかないところをプラスに捉えてやっていくのも良さではないかと考えている。

### 【委員】

一貫校ではないが、唐丹小・中の行事等はほぼ一緒にやる。運動会も合同で、1回で済むのですごく助かっている。小学校の競技、中学校の競技があるが、その中で中学生が小学1年生と一緒に競技し、中学2、3年生の反抗期にあたる男の子たちも小学生を扱う時にはすごい優しい顔をして教えたりとかしているのはすごくいいと思う。ただ、授業参観が年に1、2回は小中一緒の時がある。兄弟がいる場合、2人親が来られればいいが、1人だと中学校に行ったり小学校に行ったりと中途半端にしか参加できないので、そういうところを配慮してもらえればいいと思う。

人間関係の固定化は、9年間ずっと一緒なので厳しいところがあると思っている。中学校はいろんな小学校から集まって一つの中学校としてやってきたので、少々小学校で嫌な思いをしても中学校に行けば新しい友達ができると思っている、一貫校だと、人

間関係が固定化してしまっていて、何かあれば転校するしかないと思う。

子どもたちはSNSも、部活も、クラブチームも、いろんな学校が混じってやっているのので、転校先も釜石東中と釜石中、釜石に2校しか残らないとなると、噂がすぐ広まってしまう。学校に行けない子が今増えているので、そういうところは考えてあげないといけないと感じる。

良い所も悪い所もあって大変だとは思いますが。今の説明を見ていると唐丹と似ているところがあった。ただ、教わる場所は教わるけれども、ずっと一緒なので先輩・後輩がない。昔みたいに先輩に絶対言っちゃいけないこととかそういうのがない。「〇〇さん」「〇〇先輩」ではなく、小学校1年生から中学校3年生まで先輩・後輩の関係がなく友達みたいな関係のままなので、そこも問題かなという感じはするが、今の説明を聞いてみて、結構いい感じの関係にもなるのかなと思った。

**【委員長】**

何かあれば先生からもお願いします。

**【主任指導主事】**

人間関係の固定化というのは前任校でも課題になっており、どう改善していくか、良くしていくかというのは職員内でも議論になっていた。そのために小学校と中学校の教員で一緒に見ていこうという体制ができた、いろいろな人との関わりを増やそうという取組が増えたが、まだ足りないところもあり、これからまた考えていく必要があるとは思っている。

**【高橋教育長】**

授業参観では何か工夫はしていたか。

**【主任指導主事】**

授業参観は、ゆっくり見る時間を確保するという事で、小学校、中学校別々の日に設定した時もあったし、小中の成長を見てほしいということで小学校、中学校を一緒にした時もある。それぞれ目的があって行っているものの、私は参観日の時には写真を撮る係だったが、やっぱり一緒に行くと慌ただしくて1つの授業を見る時間が少ないので、保護者の方のニーズとか、学校の参観日を行う目的とか、そういうところをすり合わせながら考えていく必要があると思う。

**【委員長】**

その他、ありませんか。

**【委員】**

視点が違うかもしれないが、お伺いしたいことが3点。

まず1点目。統合になった学校は、どのくらい離れている学校が集まっているのか。通学手段はスクールバスなどの運用もあるのか確認したい。

**【主任指導主事】**

中心に紫波東学園があるような形。大体20km程度離れている学校もあるので、スクールバスで5つの路線を使って子どもたちは登校している。大体7時30分に早い子が出発して、学校に着くのが8時ちょうどとなる。

**【委員】**

中学校と小学校で下校時間が違うような時、バスの運行は小学校、中学校が別で運行されているのか。

**【主任指導主事】**

様々だが、基本は2時50分、3時50分、4時50分の3つの時間で下校バスを運行していた。ただ、中学校の部活動の延長がある期間は、5時50分に時間を設定し4つの時間で運行する時もある。午前授業の日には、12時50分とかになることもあった。

**【委員】**

特に小学校のため、中学校のためというわけではなく、設定された時間のバスに子どもたちが乗って帰るイメージか。

**【主任指導主事】**

そう。小学校、中学校が同じ時間に乗る日もあるし、別々の時間帯のバスに乗る時もある。

**【委員】**

2点目。紫波東学園というのは新たにつくられた学校か。それとも既存の学校に集約された形か。

あと、統合された学校が今現在どのような形で利用されているのか、もし分かれば教えていただきたい。

**【主任指導主事】**

紫波東学園は新しくつくられた学校。統合当時に紫波第二中学校と紫波東小学校の一体型としてつくられた。体育館だけは紫波第二中学校のものを使っている。

旧5校の小学校については、ビッグブルズの練習場所になっていたり、町の取組の一つとして、今事業を進められて改修が始まっているところもある。長岡小学校というところ。あとは、学童のように子どもたちを見守る施設になっている学校もある。

#### 【委員】

野外の活動施設が釜石にはないので、もし利用されればいいと思っていたが、そのように活用されている例もあるということなので、今後期待できるのかなと私自身は思う。

3点目。行事の関係。5校もあるとそれぞれ独自の取組や行事があったと思うが、継続して行われているのか、3年間の中でやめる形をとっているものもあるのか教えていただきたい。

#### 【主任指導主事】

統合当初は各校の取組は一旦なくなったような形になる。ただ、段々と学校運営協議会での地域の方の声とか、あとは、旧小学校にいた先生の声などを踏まえて地域の良さを繋ぐというか、伝統を守っていくことも必要だろうということで始まったのが総合的な学習で、それぞれの地域の祭りだったり、特色を紹介し合う活動が始まった。例えば、佐比内小学校では金山太鼓というのもあり、そういうものを紹介する活動があって、少しずつ教育活動に関わりを持たせている。

#### 【委員長】

私からも一言。

映像を見て、私が子ども時代に経験した学びの場所を学校でしているんだなという感覚。私が小学校、中学校の時は、釜石は大変人口の多い街だった。1クラス50人。ぎゅうぎゅう詰めの教室で勉強した。

家に帰るとテレビのある家がほとんどない時代。1年生からというより、小さい子から中学生まで一緒になって遊んでいた。お兄さん、お姉さんたちがいろいろ教え、一緒に遊んでくれる、帰る時間になれば送ってくれる、そういう学びの場所があった。

両親が働いていて学童や支援センターに行っている子どもたちがいるのだろうが、今、外で遊んでいる子どもをほとんど見かけなくなった。その中で9年制の映像を見てみると、大いなる学びの場所になるのであれば、やはり釜石の教育の一環としては、ありきの進め方かなとも思う。

中学校は2校の考え方で進めているわけだが、どっちに行くかは子どもたちが決めてもいいのではないかな。大人数のところでもまれて勉強したいと思うか、9年制の学校に行ってみたいのか、子どもたちが希望するところで学べるということも、釜石の特徴としては発信できるのではないかなと思った。

孫から聞いたが、担任の授業が数科目しかなく、専門の先生が音楽、体育を受け持ち、

中学校のような授業の仕方を小学校で経験している。これは知らないことだった。算数に至っては、「A・B・C・D」と理解度で分け、自分が頑張れるグレードで頑張っ、先生方が応援して友達同士でも教え合う体制で、隣のクラスと一緒に勉強しているとも聞いた。やっぱり時代によって教育の現場は変わってきていると思う。私たちは、最終的には子どもたちのために何を進めていくのかということ、この会もそうだが、これからの教育現場でも一番それを考えていながら進めていってほしいと思う。

【委員長】

続いて(3)「学校規模適正化・適正配置推進計画」の素案について事務局から説明願う。

(資料3を基に事務局から説明)

【委員長】

範囲を区切って皆さんから意見を頂きたい。

まずは、大きな1番、「推進計画策定に当たって」の部分。2ページ目の「3 計画期間」のところまで。

【各委員】

(なし)

【委員長】

続いて大きな2番、「学校の適正規模・適正配置の具現化のための具体的計画」の「3 統合計画」のところまでの部分。特に朱色で書かれている部分が加筆・修正された部分だが、何か意見は。

【委員】

釜石小の学校区について。小佐野小まで想定した場合に、活用する校舎はどういう見直しになっているのか。

【事務局】

釜石小、双葉小、小佐野小と考えた場合、集まることを考えれば双葉小が中間になるとは考えている。ただ、小佐野小の方が教室数は多かったり、それぞれ一長一短なので、今後の協議、検討次第というところだが、配置的な部分を考えれば双葉小かなというところ。

【委員長】

その他、ありませんか。

【委員】

将来的な話だが、釜石市内の小学校は、甲子小と釜石小と釜石東学園みたいな3校ぐらいになるイメージか。

【高橋教育長】

将来的なところは未定。児童生徒数の推移を見ると、甲子小、小佐野小、平田小と、今回の統合対象になっていないところもどんどん減っていくので、次はどうするかということが出てくると思う。

今の段階では、例えば市内の小学校を2校にするのか、3校にするのか、非常に難しいと考えている。場所や財政的な部分で難しいところもあると思っている。先ほどの推進計画は、まずはできるだけ小学校の複式を解消すること、中学校はある程度大きく統合することを大きな目標としたい。唐丹小は当面は残すとしているが、これからも協議を続けるということにしている。

釜石小、双葉小、小佐野小のところで正直に話すと、小佐野小まで統合に含むと非常に大変で、時間も掛かると考えている。また、小佐野小の学区を分けるということも想定すると非常に議論に時間が掛かると考えられる。

教育委員会とすると、釜石小と双葉小、両方とも減っていくので、まず釜石小の複式の解消をメインにすれば、釜石小と双葉小を先に統合してしまっ、そのあと、市内全部が減ってくるので、全体として中学校は今回である程度統合ができれば、次の段階では、中学校の統合という話はそれほど出てこないのかなと思うが、小学校をそのあとどうするかという話が出てくると思っている。

繰り返しになるが、今回は令和14年度までで小学校の複式の解消と中学校の大きな統合をまず中心に進めて、そしてその次の計画はどうするかという事が後で出てくるのではないかなという見通しで考えている。

【委員】

白山小が釜石小と統合したあとにさらにまた統合となるなら、平田小に最初から統合したほうがいいのか、という意見も出るのではないかな。そこが曖昧というか方向性がないと、どっちに行ってもいいですよという話になった時に困るのではないかなと思うので、そこだけはしっかりしておいたほうが良いと思う。こういう検討をしているということを、今後入学する子の保護者に説明する必要があるのかなと思う。

【委員長】

教育長から話があったように、その都度話をしていくことがこれからもっと必要にな

と思うが、まずは複式を解消して、統合に向けて進んでいるということによろしいか。

数年後に絶対また小学校統合の問題が出てくるような児童生徒数だということもよく承知しているので、またその時に取り組む大きな課題なのだろうと思う。

**【委員】**

先ほどの説明で、白山小が平田小に行くのか、釜石小のほうが近いのかという選択のことを話されたが、私も同じで、それだったら釜石小の方を明確にすれば、自然に整理されてくるのかなと思う。方向性は他委員と同じで、早めに示したほうが、整理しやすいのではないかと思った。

**【事務局】**

白山小についても、色々と条件を提示しながら今後も話をしていこうと思っている。委員がおっしゃるように、釜石小もどんどん人数が減って複式が見えてきているので、いずれ何かしらの措置、統合なりしなければという実態も白山小にも伝えながら話を進めていきたい。意見として承る。

**【委員長】**

その他、何か。

**【委員】**

学童、児童館について。釜石小、双葉小、小佐野小まで一緒になるかもしれないという話だが、現在、小佐野小の学童は100人以上いて、双葉小は50人近くで学校の施設と図書室の一部を借りて運営している。人数が減るにしても、3つの学校の学童を一緒にするとすると、定員オーバーというか施設的にも足りないところもあるので、丁寧な対応が必要になると思う。あと小佐野小、双葉小は市から委託を受けた社教で運営している学童だが、釜石小は運営母体が違うので調整が必要になってくる。

前回話した栗林児童館の存続に関わって、3月に役員会の総会があり、保護者の意見を聞いたところ、児童館として残してもらえれば、親としては栗林の児童館のほうを利用させたいという考えがある。ただ、子どもがどちらを選ぶかは分からないので子どもの考えを尊重したいということだった。また、長期の休みについては、鶉住居小まで送る必要があるので、ここを利用させてもらえればありがたいということだった。

学童クラブという名前にしてしまうと、放課後の子どもを預かることになるので、栗林小そのものがなくなってしまうと、学童としての存続は難しいのかなというところはある。児童館として残してもらえれば、長期の休みだけ開催とか、普段は誰でも利用できるということやっており、例えば、不登校のお子さんとか集団には馴染まなくて居場所がほしいなというお子さんも利用できるの、ぜひ統合後数年は、栗林は児童館と

して存続させていただければありがたい。

ただ、市のほうは、児童館をやめて学童にしたいというのが正直なところだと思う。学童は国や県からお金が出て運営しているが、児童館は市が手出しをしなければならない。釜石市はなるべく支出が少ないように、児童館はやめて学童にしてほしい。ここ数年でそういう流れになるのではないかと思うので、その辺も含めながらご検討いただければと思う。

**【事務局】**

今の件については、前回会議が終わったあとに、こども家庭課に情報提供した。今後とも情報共有しながらできるだけいい形で残すことができるように協議していきたい。

**【委員長】**

続いて、「小中一貫教育の導入の方向性」について、何かありませんか。

**【各委員】**

(なし)

**【委員長】**

8ページ、大きな3番、「学校統合を進める上で配慮する事項」について。

**【委員】**

栗林では9年度には統合と噂になってきている。いつ公式に発表になるのか。

先ほど、準備期間は2、3年ほしいという意見があったが、釜石東中の50周年の準備も2、3年前から動けばよかったとのこと。9年度だと、もう1年ちょっとしかない。子どもたちも今そわそわしている。自分の時に栗林小がなくなるのか。先生方も何も言えない。校長先生、副校長先生も部外秘ということで学校運営協議会でも話題にもならない。部外秘だと、どこでどう言ったらいいのか、皆困っている。地区の人も困っている。

統合が9年度でなければいい。10年、11年、12年なら。いつになるのかだけ早めに発表してもらい、発表後に、スクールバスは何時を予定しているとかという話は言われたらやるということではなく、進めたほうが良い。

先ほど、他の学校の事例の話があったが、私たちは分からない。今のPTAのことも分からない。教育委員会の皆さんは各学校のことも分かると思うので、こういうことは出来る、これは国の補助がないので厳しい、とはっきり言ってもらって、それから皆で統合後どうしたらいいか協議をしてもらえればいいと思う。今日は回答はいらないので、次の会議の時にでも教えてもらえれば、地区でこれからのことが協議できるのでよろしくお願ひしたい。

【高橋教育長】

今の件でだが、栗林地区は、統合については大きな反対意見もなく、教育委員会としても9年度には入学児童が1人になる見込みということもあるので、早く進めたいというのはその通り。PTAのほうでも色々と動きがあるようだ。そういったところも含めて、1つの例としてPTAのほうからぜひ統合を進めてほしいということを教育委員会にいたり、地域の方とも協議をする等、その辺のところを今後進めながら、何らかの公表はしていきたいと思っている。

【委員】

噂ばかりが広まって、特に子どもたちは、私たちの代で学校が終わるとか、最後の入学式だという噂が出る。この前入学したのが3人だったが、今後は0人、1人になってくるから統合かもしれないという話も飛び交っている。部外秘ということで学校関係者が特に気をつけている。

【高橋教育長】

そのところは、確認させていただく。

【委員】

次の委員会にでも、このような手順で発表しようと思っているというスケジュール等の話ができれば。令和9年度に栗林小は150周年になる。そこら辺も含めて。記念誌とかもあるので。

【事務局】

4月に各学校のPTA総会を回った。栗林小でも先日開催されて、統合については問題ないという意思表示をいただいた。計画として、今まで方針としてお示したが、対象校や合併時期について、企業でいう納期みたいなものが示されていなかった。

今回は朱書きの部分にある通り、対象校、エリア、合併の時期ということのを落とし込んだ段階。今年度上半期、9月くらいまでを目途に計画の形を作りたい。皆さんも持ち帰ってご覧いただいて、次回の会議では、意見を集約した形で考えを固めたいと思っているので協力をお願いしたい。

【委員】

そうなれば、了解さえ得られれば内々で動けるところは動く。

【委員】

1年ちょっとでは何もできないと思う。9月だとあと1年しかない。地区の方は皆仕事をしているので、学校を閉じるとなるとなかなか時間がない。

市内にナイター施設があるのは甲子だけだった。ナイター施設があるのは、あとは栗林だけ。結構他の地域の子どもたちも来て使っている。避難所にもなっているし、そのあたりも含めて、1年で詰めることはきついなと思っていたので、できれば内々でもできる話があれば教えてほしい。できれば、でいい。

【委員長】

次回はその話も含めてお願いします。

「4、その他」について何か。

【各委員】

(なし)

【委員長】

これで本日予定していた協議は全て終了となる。教育長、一言お願いします。

【高橋教育長】

本日は、まず1つ目は小中一貫教育についてご理解いただけたのかなと思う。まだ不明な点などがあれば、教育委員会にご意見をお寄せいただきたい。

2つ目、推進計画がより具体的になってきている。特にこの中で教育委員会として一番皆さんの意見を聞きたいと思っているのは釜石小と双葉小と小佐野小のところ。後ほど、ここまで含めて考えたほうがいいのかどうかご意見をいただきたい。それらのご意見を踏まえながら、最終的には教育委員会の考えを出していきたい。

地域で早く公表したほうがいいのかどうかというところも相談したいと思う。

7 閉会

(教育部長あいさつ)